

第6章 材料使用変更経緯書

NO. 1

資材名	経過				
	昭和50年度(1975)	平成2年度(1990)	平成4年度(1992)	平成12年度(2000)	平成14年度(2002)
ダクタイル鋳鉄管	DCIP-A形1種	DCIP-K形1種 採用	内面エポキシ樹脂粉体採用 DCIP-KE	DCIP-KE形	DCIP-NS形採用
	モルタルライニング管	モルタルライニング管		1種→3種に変更	φ75～450
	平成17年度(2005)	平成29年度(2017)			
ダクタイル鋳鉄異形管	DCIP-NS形採用	DCIP-GX形採用			
	φ500～800	φ75～300、φ400			
	昭和50年度(1975)	昭和58年度(1983)	平成14年度(2002)	平成17年度(2005)	平成29年度(2017)
特殊押輪	JIS(瀝青樹脂)	内面K135	FCD-NS形採用	FCD-NS形採用	FCD-GX形採用
		エポキシ樹脂粉体採用	φ75～450	φ500～800	φ75～300、φ400
	昭和50年度(1975)	昭和53年度(1978)	昭和62年度(1987)	平成2年度(1990)	
塗覆鋼管	押しボルトタイプ	Co防護+特押	ワイド半数クサビ特押	φ75～350までK形追加	
		またはクサビ特押		ワイド全数クサビ特押 全て高圧用に変更	
	昭和50年度(1975)	平成元年度(1988)			
ポリエチレン管直管	内面タールエポキシ	塗覆鋼管 JWWAK135 液状エポキシ樹脂塗装 (内面タールエポキシの使用中止)			
	昭和50年度(1975)	平成2年10月(1990)	平成5年6月(1993)		
	1層管	二層管(原則取出し最小口径20)	県道 給水管に使用		
ポリエチレン管継手	昭和50年度(1975)	昭和51年度(1976)	昭和55年(1980)	平成13年12月(2001)	平成17年11月(2005)
		止水栓への接続	PVソケット採用	ワンタッチ式採用	
	コア式	分止水栓直結ソケット	ロングベンド採用		鉛シス化

資材名	経過			
	平成 21 年 4 月 (2009)	平成 22 年 6 月 (2010)		
水道配水用 ポリエチレン管	HPP φ50～200 採用	HPP φ50 受口付を追加		
	昭和 50 年度 (1975)	昭和 56 年度 (1981)	平成 11 年 8 月 (1999)	平成 21 年 3 月 (2009)
水道用塩化ビニル管	VWP (水道用硬質塩化ビニル管)	RR-VWP (水道用ゴム輪形硬質塩化ビニル管) 採用	全て HI-VWP (水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管)、HI-RR (水道用ゴム輪形耐衝撃性硬質塩化ビニル管) とする	配水本管として、使用中止とする
SGP 鋼管	昭和 50 年度 (1975)	昭和 60 年度 (1985)		
	ねじ切り部にシールテープ + ヘルメチック塗布	ねじ切り部分に防食コブア使用		
仕切弁	昭和 50 年度 (1975)	昭和 58 年度 (1983)	昭和 61 年度 (1986)	平成 19 年度 (2007)
	JIS 規格	内外面 エポキシ樹脂粉体	ソフトシール弁採用	NS 形ソフトシール弁 (両受、受挿し)
排水弁 (泥吐弁)	昭和 50 年度 (1975)	昭和 58 年度 (1983)		平成 29 年度 (2017)
	JIS 規格	ソフトシール弁採用		GX 形ソフトシール弁 (両受、受挿し)
バタフライ弁	平成 2 年 7 月 (1990)	平成 19 年 8 月 (2007)		
	内面塗装液状エポキシ採用	センターキャップ式採用		
不断水 T 字管	平成 2 年 7 月 (1990)	平成 8 年 7 月 (1996)	平成 16 年 4 月 (2004)	平成 21 年 7 月 (2009)
	内面をエポキシ樹脂粉体に変更	組立てボルトナットをフッ素合金又は SUS	ソフトシール弁に変更 全周パッキンに変更	耐震可とう型 (NS 形 挿し) を追加 耐震型 (K 形挿し)、免震 可とう型 (F 形) を追 加

資材名	経過				
	昭和50年度(1975)	昭和52年度(1977)	平成8年度(1996)	平成16年度(2004)	
T頭ボルト、ナット 六角ボルト、ナット	J I S	酸化被膜処理	フッ素合金採用	SUSボルト使用	
ポリスリーブ	平成12年8月(2000)	平成21年4月(2009)			
	鋳鉄管及び サドル分水栓に使用	HPP管に浸透防止用 追加			
仕切弁ボックス	昭和50年(1975)	昭和59年6月(1984)	平成12年6月(2000)	平成25年5月(2013)	
	401型 (光コンクリート製)	SC-1 (光コンクリート製)	レジンコンクリート 採用	円形1号の組合せ変 更(調整リング追加)	
消火栓 空気弁ボックス	昭和50年(1975)	昭和60年(1985)	平成19年8月(2007)		
	コンクリート製(角形)	レジンコンクリート 採用(角形)	円形ボックス採用 (角形、円形)		
管標示テープ (中間テープ)	昭和50年(1975)	平成7年5月(1995)	平成11年7月(1999)		
	中間テープ管上 0.60m	国県道の中間テープ 位置管上0.50m	中間テープ管上0.40m 国県道は管上0.50m		
管標示テープ (貼付テープ)	平成4年度(1992)	平成6年度(1994)	平成12年度(2000)	平成12年度(2000)	平成26年度(2014)
	内面エポキシ粉体用(白 色)の貼付テープ追加	軟質のものに変更	内面エポキシ粉体用(白 色)の貼付テープ廃止	内面エポキシ粉体用(青 色)の貼付テープ追加	内面エポキシ粉体用(青 色)の貼付テープ廃止
	平成29年度(2017)				
ロケーティング ワイヤー	平成29年度(2017)				
	送、導水管用の貼付テ ープを登録材料に追加				
ロケーティング ワイヤー	昭和62年11月(1987)				
	使用開始				

資材名	経過		
	平成 20 年 9 月 (2008)		
管路の耐震化に関する 方針 (通知)	フランジは RF-GF の組合せとする ネジ切鋼管は、耐震管路には使用しない。		
防食コア	平成 12 年 7 月 (2000)	平成 21 年 7 月 (2009)	平成 29 年 1 月 (2017)
	DCIP 管サドル分水時に密着コア取付	耐震可とう型 (NS 形挿) 不断水 T 字管に密着コア取付	本管 $\phi 75 \sim \phi 600$ で分岐口径 $\phi 75 \times \phi 150$ までのすべての不断水 T 字管に密着コア取付
接合材料	平成 14 年 5 月 (2002)		
	VA ジョイント使用中止し、CVS-A 使用		
産業廃棄物	平成 11 年 3 月 (1999)		
	産業廃棄物管理票提出 (マニフェスト提出)		
再生資材	平成 12 年 4 月 (2000)		
	RC-40 使用		
埋設深度	昭和 50 年 (1975)		
	埋設深度 $\phi 50 \sim 300$ $\phi 350 \sim 700$ $\phi 800 \sim$	H = 1.2m 以上 H = 1.4m 以上 H = 1.6m 以上	平成 11 年 7 月 (1999) 浅層埋設開始 $\phi 50 \sim 75$ $\phi 100 \sim 200$ $\phi 250 \sim 300$ $\phi 350 \sim 700$ $\phi 800 \sim 1000$ H = 0.7m 以上 H = 0.9m 以上 H = 1.2m 以上 H = 1.4m 以上 H = 1.6m 以上

資材名	経過			
	平成 12 年 6 月 (2000)	平成 14 年 4 月 (2002)		
直結直圧、増圧給水	3 階直結直圧給水施行	直結増圧給水施行		
止水栓、他 (メータ廻り)	昭和 51 ～ (1976)	昭和 57 年 (1982)	昭和 60 年 5 月 (1985)	平成 14 年 4 月 (2002)
	ピン式止水栓 (盗水防止用止水栓)	首長式止水栓採用 (盗水防止用止水栓)	開閉防止型ボール式止 水栓及び逆止弁採用	φ30～50 の逆止弁 採用
メータボックス 内の指定	昭和 50 年 (1975)	平成 7 年 8 月 (1995)		
	メータ保護のため 周りに砂入れ	砂入れ廃止		
メータユニット	平成 17 年 4 月 (2005)	平成 22 年 1 月 (2010)		
	φ20 用採用	φ13、25 専用と φ20×φ13 用を追加する メータ脱着スライドの位置統一、ハンドル形状 変更		
PS 用メータユニット	平成 15 年 7 月 (2003)	平成 17 年 3 月 (2005)	平成 22 年 1 月 (2010)	
	φ13、20 チャケット式逆止弁	φ13、20 リフト式逆止弁に変更	脱着スライド位置統一	
メータボックス	平成 19 年 9 月 (2007)			
	φ13～φ25 枠と底版の緊結化			

経過						
年号 口径	昭和 55 年 (1980)	昭和 56 年 (1981)	平成 1 年 7 月 (1990)	平成 2 年 6 月 (1990)	平成 7 年 7 月 (1995)	平成 19 年 8 月 (2007)
50	单口空気弁	小型空気弁又は 单口空気弁 φ 20	小型空気弁 (急排型) 又は单口空気弁 φ 20	小型空気弁 (急排型) 又は单口空気弁 φ 25	小型空気弁 (急排型) 又は急速空気弁 φ 25	小型空気弁 (急排型)
75		单口空気弁 φ 25	单口空気弁 φ 25	单口空気弁 φ 25	急速空気弁 φ 25	急速空気弁 φ 25
100						
150						
200		双口空気弁 φ 50	双口空気弁 φ 50	双口空気弁 φ 75	急速空気弁 φ 75	急速空気弁 φ 75
250						
300						
350	双口空気弁	双口空気弁 φ 75	双口空気弁 φ 75	双口空気弁 φ 100	双口空気弁 φ 100	双口空気弁 φ 100
400						
450						
500		双口空気弁 φ 100	双口空気弁 φ 100	双口空気弁 φ 100	双口空気弁 φ 100	双口空気弁 φ 100
600						
700						
800						
900						
1000						